

渥美ロータリークラブ 卓話（元年11月13日）

本日はロータリーについて考えると題して、最近のR I（国際ロータリー）と私が入会した30年くらい前のロータリーとの違いを私の感想を含めながらお話ししたいと思います。かつてロータリークラブというと、何をしている団体かわからないが、何かステータスを感じる憧れの団体でもありました。イメージとしては男性社会、年配者、閉鎖的、時間のある人、社会的地位の高い人、高学歴などの印象を持つ人が多いようでした。

そして、職業人や専門職務に従事する人が個人の事業で行う職業奉仕を根幹とした活動をしていました。ロータリーの目的は『意義ある事業の基礎として奉仕の理念を推奨し、これを育むことにある』ということからも、事業上での奉仕と理解されておりました。

ところが2015年R Iの理事会で、ロータリーは過去にとらわれなくて、時代の変化に応じて適応していかなければならないとの考えが採用されました。目に見える奉仕、汗をかく奉仕、を多くの仲間と共に行う、会員増強と公共イメージの向上、財団への寄付貢献が戦略計画で強く打ち出されました。これにより、ロータリーにブランド化が起こりマークも文字と歯車になり、より分かりやすくなりました。

さらに中核的価値観ということで、奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップの5項目が提示され、職業奉仕が根幹（中核的価値観）としてきたこれまでの日本のロータリー観との違いに戸惑う方が出てくることになりました。

クラブや会員に個人の多様性を取り入れて、幅広く多くの世の中の方に参加いただき、いろいろな形で奉仕活動をしてもらうことが求められ、これをロータリーとして受け入れることを柔軟性と考えよう、ということのようです。しかしこのことは、職業人の枠が外れたことも含め本来の多様性というより、何でもありという感じを抱かざるを得ません。

また、高潔性としてよく4つのテストを取り上げられますが、これはもともと倒産した企業の立て直しの時に考案されたもので、現在の日本語の訳と共に、職業上での解釈を知っておく必要があり、その上で倫理性（高潔性）を考える必要があると思います。

私が入会時に教わったロータリーとは、個人奉仕であり団体奉仕はライオンズクラブである、例会が大事で例会への出席義務は重要である、親睦と親睦活動は違う、返事はハイとYESと喜んで以外はない、と先輩会員から言われてきました。

ところが今、出席義務であるメイクアップの規定もゆるくなり、例会に出るより奉仕活動に出ましょう、奉仕活動でロータリアン以外の多くの人とも手を取り合って、より大きな奉仕をしましよとなってきました。このことはロータリーのビジョン声明の中の、人々が手を取り合って行動する世界を目指すとか、今年度のR I会長テーマCONNECT（つながろう）に表されています。

このように、職業奉仕として個人奉仕を中心に発展してきた日本のロータリーと、仲間を広

げてより多くの人とつながって団体で奉仕しようとする R I の方向性としにズレを感じる日本のロータリー歴の古い会員の方が多くいるように思っております。

最後に、私の考える今のロータリーに必要なことは、R I の方向性に、職業奉仕の正しい理解と奉仕の理念の実践をプラスするべきだと思います。R I から職業奉仕委員会がなくなりましたが、職業奉仕の重要性は失ってはいけないと思っています。特にロータリーソングの『我らの生業』2番の歌詞には、職業奉仕のことが実によく表されています。

私はロータリーとは、職業奉仕を基礎として、奉仕の心の実践を行っている、世界の人と結び合った団体と思っております。本日はご清聴有難うございました。